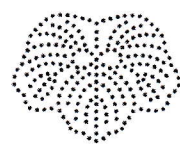


リゅうま伝は高野の分身が お客様のとろへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



# リゅうま伝

51号

2024年2月26日

高野 竜馬

### 「名前」の由来

恥ずかしいほど世論に疎い私も先月届いた「桐島聡」のニュースには感慨深いものがありました。タク5年、連続企業爆破事件の複数のテロ事件に関与し、指名手配されていた男が、神奈川県の上野原で「桐島聡」と名乗り出たという話。

身元が特定される前に末期の胃ガンで死亡しましたが、「最期は本名で迎えたかった」という言葉に驚かされます。ちなみに親族はこの男の遺体を引き取ることを拒否しているそうです。

「リゅうま」何を今さら身勝手な…….」と思われて当然です。罪の重さ、被害者や親族にかけた迷惑は計り知れませんが、ただ、半世紀ほど逃げ回ったのですから、或る意味、完全

犯罪のようなもので、そのまま逝ってしまう手もあったはずです。

なのに「最期の最期に名乗り出るとは」「名前」や「出自」が、それほど重たいものであるのかと、改めて考えさせられました。

そういうえば我家の認知症の母は90歳になっても「実家に戻って、そこで暮らしたい」と時々こぼします。「今は空き家になっていて誰も住んでないよ」と説明してもラチがあきません。

現地に連れ行って、もそれすら忘れて、同じことを繰り返して尋ねます。

鮭が逆上するように生まれた所に戻りたくないのでしょか？親からもらう最初のプレゼントが肉体という名の「命」なら、

名前が2番目のプレゼントと言っても差し支えないでしょう。私は子どもの頃から幾度となく父親から名前の由来を語り続けられました。

連載小説「竜馬がゆく」が完成した年に生まれたこと、丙午という干支だったこと、そして先祖が馬術の師範だったことだ。もしかしたら大きな犯罪を犯さずに生きているのは、こういう教育のお蔭なのかも知りません。

だとすれば我が子たちにもしっかり、その由来を伝えておかねばなりません。ちなみに我家の子ども2人には命を大切にしたいと願っているから「生」という字をつけています。

そしてアルファベット表記した際に「ん」で終わるように名付けています。「ん」で終わる名前も「ん」と口角が上がりやすい。つまり、皆が名前を笑顔で呼んでくれるようにとの思いからです。

「一方、自分がもらった名前を大事にしているか？ 込められた願いを叶えないまでも、それを真剣に追っているか？」と問われると、どうでしょうか……。アノ世には何も持って行けなからこそ、余命いくばくも無くなった時に焦らなくても良いよう、「今」を生きなければ！ そんなことを考えさせられたニュースでした。



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikei.com> x-1/fp.takano@gmail.com